

第二回中間報告

(報告期間2022/01/01~2022/03/30)

国際ロータリー第2710地区

2021-22年度地区補助金奨学生

近藤桃乃

派遣ロータリークラブ：呉南ロータリークラブ

カウンセラー：牛窓正規 様

留学期間：レンヌ第二大学 Université de Rennes 2

専攻：Médiation du patrimoine et de l'Histoire d'Europe

報告内容

- 1 学業面での成果
- 2 研修旅行
- 3 直面した課題、問題等

1 学業面での成果

[課外授業]

レンヌから電車で30分ほどにあるヴィトレという小さな街に、無形文化遺産をテーマにしたフォーラムに課外授業で参加しました。

ユネスコの無形文化遺産といえば、10年ほど前に和食が登録されましたが今回のフォーラムではダンサーの方のダンスの発表とディスカッションがありました。

ヴィトレは中世と古典の重要な遺産があることから、**Ville d'art et d'histoire**（芸術と歴史の街）の称号をうけ、「フランスの最も美しい街道」2位に選ばれています。また、フランスで37番目に歴史的建造物の多い町で、県の歴史的建造物の14%を所有しています。



ヴィトレ城

[共通授業]

週に2時間、歴史学部全ての学生が集まって授業を受ける共通科目があるのですが私が担当したプレゼンのテーマはフランス・プロテスタントの反乱、カミザール戦争についてでした。

この戦争について書かれた”La Legende des Camisards une sensibilité au passée”を読み分析をしました。

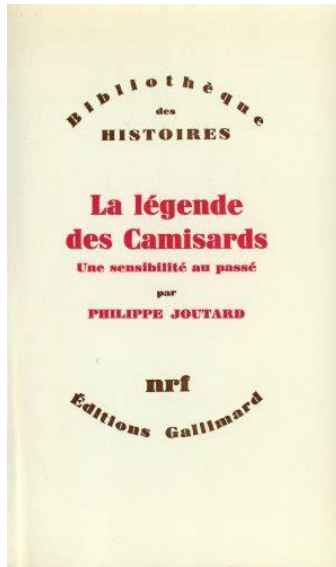
448ページにわたるこの歴史書は、フランスの歴史学者、現代歴史学教授であるフィリップ＝ジュタールによって1997年に出版されました。

彼は、集団的記憶と歴史の精緻化における口頭資料の使用の先駆者と考えられています。歴史と記憶の創造者として想像力を働かせた最初の歴史家の一人です。個人および集団的記憶に関する彼の先駆的な研究は、さまざまなテーマ(第二次世界大戦、山岳地帯、宗教、貧困など)に適用されました。

作品に関しては、カミザール戦争の記憶について書かれています。

セヴェンヌ戦争としても知られるこの戦争は、ルイ14世の治世中にセヴェンヌとバス・ラングドックのプロテスタント派農民の蜂起のことを言います。この蜂起は、プロテスタントにフランスを離れてカトリックに改宗するよう促した1685年のナント勅令の撤回によるものでした。これに応じて、多くのプロテスタントが国を逃れましたが、改宗せずにフランスに残った者もいました。プロテスタントの中には抑圧から逃れるため、山や洞窟に隠れてフランスにとどまった人もいれば、バビロンの陥落とエルサレムの帰還についての預言を宣言し、セヴェンヌ家の指導の下、荒れ野で説教してその数を増やす者もいました。

フィリップ・ジュタール自身がカミザール戦争について、さまざまな地域・年齢の農民123人にインタビューし、その大半はプロテスタントでした。彼は、口承の伝統が歴史とその出来事の教えに強い影響を与えることを示しています。また、異なる地域でインタビューを行うことで異なる視点を持つことができることを主張しています。他に、農民へのインタビューを実施したことによって戦争が地名に与えた影響も明らかになりました。



カミザール戦争の記憶 フィリップ＝ジュタール

2 研修旅行

2月中旬にあったバカンスを利用して、4日間ほどフランシュ・コンテ地方にあるブザンソンという街に行ってきました。日本人観光客には観光地としてあまり知られていませんが、チーズが有名だったり非常に歴史豊かな街で観光案内パンフレットや案内所がとても充実しており、とても感心しました。古くから地理的な条件から軍事的、政治的、宗教的に重要な都市とされ、現在はヴォーバンの防衛施設群が世界遺産に登録されています。また、バイオテクノロジーも発展しており街の至る所にエコパークが設置されていました。

ブザンソンは特に、レミゼラブルの著者として有名なヴィクトー・ユゴーの生まれた街として知られています。彼の生まれた家は現在改装され、ヴィクトー・ユゴー美術館として開放されています。日本では、レミゼラブルの印象で作家としてのイメージが強いですが彼は政治家としても活躍していました。小説や詩を執筆する一方で、政治家として奴隷制への反対、子供の教育の重要性を主張し、女性への敬意を忘れない家族面倒見のいい父だったと描かれていました。レミゼラブルの映画しか見たことがないので、これを機に彼の著書を読み始めてみようと思います。

美術館内には英語とフランス語、ドイツ語、スペイン語のパンフレットはありましたが、展示物や展示物横の説明は全てフランス語のみだったので一緒に旅行した日本人の友達に全て翻訳しながら館内を回りました。自分の知識になると同時に、ガイドの勉強にもなってお互いにいい経験となりました。



ヴィクトー・ユゴーの生家



ドゥー川に囲まれた市街地

また、タペストリーで有名なノルマンディー地方に位置するバイユーという小さな街にも訪れました。ヨーロッパ文化遺産の日ということで、友達とバイユータペストリー美術館を目的に日帰り旅行をしました。基本的にフランスにある美術館や博物館、展示会などは、外国人であっても学生は無料で入場できる場合が多いです。しかしヨーロッパ文化遺産の日は、年齢関係なく全ての人が無料で美術館、歴史的建造物、文化遺産などに入場できます。普段であれば有料のガイドもこの日は無料で頼むことができます。フランス全土では1万5千の歴史的建造物を見学することができるそうです。私もこの機会を利用して、バイユータペストリー美術館だけでなく博物館、教会でのガイドを体験しました。

バイユーのタペストリー

このタペストリーは、この世で一番古いデッサン・アニメ、日本語で言う漫画とされています。約60メートルに及ぶ麻布に、11世紀のノルマンディー公ウィリアムのイングランド征服の物語が刺繍で描写されています。保存状態が非常によく、ほとんど当時の状態のまま保管されており、現在はタペストリー美術館で展示されています。60メートルのタペストリーが、1つの展示部屋に橋から橋まで展示されていて圧巻でした。オーディオガイドを無料で利用することができたのですが、対応言語の多さに驚きました。基本的にヨーロッパ圏の言語が多かったものの日本語もあり、日本人観光客にも今後おすすめしたい美術館です。



左：バイユーステッチと呼ばれる刺繍方法 右：実際に刺繍に使用されている糸

3 直面した課題、問題等

3月中旬に、コロナウイルスに感染してしまい1週間ほど自宅療養をしていました。自宅隔離の期間とテスト期間が重なってしまったので、3月後半は追試に追われています。ワクチンは3回接種完了していましたが、ずっと外に出られないことや、授業が受けられないことのストレスもあってか、自宅療養の期間は常に微熱が続き大変でした。

また、フランスでは3月から公共交通機関や幾つかの施設を除いてマスク着用の義務化がなくなりました。しかしその直後に、私の周りでもコロナウイルスに感染した人が増えたり、授業がキャンセルされたりなど、まだまだ気を抜けないと感じます。季節の変わり目で、日によって温度差が大きいので体調管理には気をつけようと思います。